

平成28年度 第4回豊橋市総合教育会議議事録要録

平成29年3月15日 開 催

豊 橋 市 教 育 委 員 会

第4回 総合教育会議	
日時	平成29年3月15日(水) 午後1時00分～3時15分
場所	市役所西館7階 第2委員会室
構成員	佐原 光一 市長、山西 正泰 教育長 朝倉 由美子 教育委員、高橋 豊彦 教育委員 芳賀 亜希子 教育委員、渡辺 嘉郎 教育委員
事務局	加藤 喜康 教育部長 駒木 正清 教育監、金子 尚央 教育部次長 村田 敬三 教育政策課長、守田 雅一 学校教育課長 中田 浩次 教育政策課主幹 小田 恵司 保健給食課長 鈴木 伸幸 財務部長、吉原 郁仁 こども未来部長 鈴木 教仁 こども未来政策課長、前田 豊彦 こども家庭課長 山田 浩一 こども家庭課主幹 ほか 8名 全20名
その他	傍聴人 0名

議 事 日 程

市長あいさつ

協議事項

- 1 ICT環境の整備について
- 2 子どもの貧困対策について
- 3 児童生徒の体力・運動能力について
- 4 今後の協議事項について

連絡事項

- ・次回開催日程

平成29年6月1日(木)

(市長)

初めに、ICT環境の整備について説明をお願いします。

協議事項

1 ICT環境の整備について

■学校教育課長 協議事項について資料説明

(市長)

嵩山小学校はWindows（ウインドウズ）で、牛川小学校は何ですか。

(学校教育課長)

以前は、Android（アンドロイド）で、今はios（アイオーエス）で、iPadです。

(市長)

来年度の4月からは何を使いますか。

(学校教育課長)

OSについては、Windowsを考えています。

(高橋委員)

このようにたくさんの台数が入り、校内でネットワークを使うようになることを考えると、システムやネットワークの安定性を保つためのサポートについて教員が学ぶことも必要になるかもしれません。トラブルに対するサポート体制は、考えていますか。

(学校教育課)

ヘルプデスクとして、教育会館にサポートする職員が2名配属されています。

(渡辺委員)

先生方は今、一人ずつコンピュータを持っているのですか。

(学校教育課長)

校務用パソコンを使用しています。

(市長)

来年度中には、校務の通常事務も、コンピュータベシクになりますね。

(学校教育課長)

成績管理なども、校務支援システムで進めます。

(渡辺委員)

小中学校の子どもの家庭には、どのぐらいコンピュータが普及していますか。

(市長)

今、会社などでは、タブレットやスマートフォンは使えるけれど、キーボードを使って入力するなどコンピュータを使えない若者が増えているそうです。

(芳賀委員)

入学する時にパソコンを支給されたり、購入するように言われたりする大学もありますが、そういうことがないとパソコンを使いこなせないという状況になります。

(朝倉委員)

家庭にパソコンがなければ、パソコンを使ったことがない若者が多いと思います。

(市長)

高性能の機種のパソコンを購入しても、うまく使いこなせないことが生じやすいですが、文字入力やプログラミング教育を進めていくなかでどんな性能のコンピュータを考えていますか。

(学校教育課長)

現行の物ぐらいを考えていますが、タブレットとコンピュータをどういう風に導入していくかを優先に考えていきたいと思います。

(市長)

高性能のコンピュータだと台数が少なくなってしまう。低価格のコンピュータであれば、台数を多くして、一人1台の環境をつくることもできると思います。

(高橋委員)

耐用年数について、更新することを前提に考えていくことも大切だと思います。

(学校教育課長)

小学校の学習用コンピュータとして使うので、今回、タブレットとコンピュータで考えていくなれば、利用頻度ですみ分けしていくと、価格の点でもかわってくると思います。

(市長)

I C T教育環境について、技科大の先生や教育委員会の詳しい指導主事と相談を進め、まとめた物を、9月に行う第2回総合教育会議で伝えてもらうとよいと思います。現場のことをわかった上で、私たちも議論していく必要があります。また、先行的にしておかなくてはいけないことが提案されれば、補正予算を組んででも平成29年度中に試すことも、必要かもしれません。

(高橋委員)

コンピュータは変化が激しいので、長く使うことを考えると、過剰投資になってしまうこともあります。家庭でのパソコンの使用状況は、どうですか。

(こども未来部政策課長)

今回の調査から、自分専用のパソコンを持っている児童生徒は、小学5年生で37%、中学2年生で52%となります。インターネットがつながるパソコンということで、回答を求めています。

(市長)

小学5年生が3分の1、中学2年生が2分の1となっています。

(芳賀委員)

DSなどのゲーム機器もインターネットにつながるので、それも含まれるかもしれません。

(高橋委員)

親子兼用として使いたい時に使えるから、家庭のパソコンを自分専用というふうに認知しているかもしれませんね。

(渡辺委員)

OSは、どんどん進化していてシステムが大きくなりました。昔は、システムを書き換えることができましたが、今は難しいです。だから、最新の物ではなく、学習に必要なレベルとして考えていけばよいと思います。

(朝倉委員)

新学習指導要領において、プログラミング教育が入ってきますが、子どもに対する教育の入口は、プログラミングなのですか。プログラミング教育で、何を伸ばそうとしているのか見えていないのですが。

(学校教育課長)

プログラミング教育として、コンピュータを用いて論理的思考を育てます。例えば、作曲をしたり、物づくりをしたりする活動があります。

(朝倉委員)

文章の構成など、組み立てみたいなのを伸ばす国語的な分野も入るのですか。ワードで文章を打つという学習もあるのですか。学生を見ていると文章化する力や起承転結を意識した話し方が弱いと感じます。そういう部分を育てるための導入として、プログラミングも関係するのですか。

(市長)

嵩山小学校の取り組みは、コンピュータの技術を授業にうまく活用して、反転授業を取り入れたり、みんなで意見を言い合ったりしています。嵩山小のように授業の中にコンピュータを取り入れていく学習と、コンピュータプログラミングを使って、論理的思考を学ぶ学習とでは異なります。

(教育長)

国語の文章を読んで作文するという学習ではなく、コンピュータを通して論理的思考を育てるということです。

(高橋委員)

例えば、コンピュータが動かない時に、どういう風にしたら動くようになるのか論理的に考えるプロセスのことだと思います。コンピュータは指示されたことに対してのみ動く物だからです。

(学校教育課長)

最初は、ワードの使い方として学習しますが、その後は、学習の中で発表する際のソー

ルとして活用するようになります。

(教育長)

簡単に言うとペッパー君を動かすことができるようにするということだと思います。

(市長)

6月の総合教育会議で、みなさんが考えるプログラミング教育と、ICT教育の環境づくりの2点にしぼって進めましょう。

協議事項

2 子どもの貧困対策について

■こども未来政策課長 協議事項について資料説明

(高橋委員)

資料の8-3(保護者が子どもに希望する進学先(大学まで))と8-4(子どもの希望する進路)の保護者の「受けさせたい」の回答が県と豊橋の差があり、「経済的に受けさせることが難しい」の回答においても、県と豊橋の差があります。大学まで行きたいと思うかは別として、県と約12%の差があります。これだけ、差があるのは気になります。8-4で、本人がこの時点で大学に行きたいと考える回答が、低くなっているのも気になります。どういう意識が、この背景にあるのかと思います。

(渡辺委員)

親を見て育つということもありますが、情報が氾濫しているので、逆に全く情報がないのと同じ状況になっている気がします。情報があふれ、選択できない状況にあるのではないかと思います。今の子どもは、リテラシーというのも十分育っていないということも言えると思います。

(高橋委員)

今、どこを深く掘り下げて考えることが必要なのかということも大切です。キャリア教育として、選択肢からこんな道もあるのかと理解させるなどの手だてがあることで、この調査結果に変化が出るのか。やはり、県との12%の差は驚きました。

(教育長)

子どもに夢を持たせなくてははいけませんね。

(市長)

そもそも49%という回答率が低いことも、驚きました。回答率が低いことから、子どもの貧困問題が社会的な課題だという認識がまだまだ低い状況が考えられます。

(高橋委員)

夢をもってよいことを、子どもたちに伝えたいですね。

(教育長)

キャリア教育はどのようなふうに進めているのですか。

(学校教育課長)

小学校も中学校もカリキュラムを作成して、特に小学3年生は、いきいき活動として豊橋の学習をして、中学2年生はビジネスワークの協力を得ながら、職場体験や講話を行います。本年度から職業適性検査を行い、自分自身の将来について考える取り組みをしています。また、様々な職業の方の話を聞いて、視野を広げる方向性に変わってきています。

(教育長)

卒業の時に、将来何をしたいか、何になりたいかについて、子どもたちはみんな書くことができます。具体的に、そこまでの過程で何が必要かということが抜け落ちているかもしれません。

(高橋委員)

少子化も進み、定員との割合からすると、東京など私立大学に比べ、地方の国立大学の志向が上がっている今の状況も考えられます。昔と比べ、都市部の学費、居住費が高くなり、このような流れになっていると聞きます。

(渡辺委員)

通えることができる大学にという考えも強いようです。奨学金のこともありますが、生活費も大きいので、そこをサポートする必要はあります。貧困について言いますと、日本は若者に対する福祉があまりないです。北欧では、福祉は住居に始まり住居に終わると言われます。大学の進学に関して、住むところについてサポートすることは大切なことだと思います。例えば、市営住宅に若者が入れるようにするというのも手だてとなります。フランスでは、若者に公営住宅などを提供し、子どもも増えたそうです。少子化は、住居の問題ともつながります。

(高橋委員)

市内の学生は自宅から通いますが、市外からの学生の住宅の問題もありますね。技科大では、県外から来る人と、卒業後に県外へ出る人の割合を考えると、出る人の方が少ないそうです。そういう素地のある大学が豊橋にもあるので、連携しながら進めるといいと思います。

(朝倉委員)

資料の8-3の「経済的に受けさせるのが難しい」が県と比べると高くなっていて、豊橋市だと3つしか大学はないので、大学進学となると通いたくても大学がないということになります。浜松市や名古屋市も通うことができるエリアになるかもしれませんが、市外の大学となると、大学を受けさせるのが難しいという回答がさらに高くなるかもしれません。浜松市や名古屋市も通うことができるエリアになるかもしれません。

(渡辺委員)

豊橋市の子どもが、東京、京都などの大学に進学する時に、奨学金などの経済的な支援

が必要だと思います。キャリア教育として、教育長が言われるように夢や将来の具体的なビジョンを子どもたちが抱けるようにする教育が必要だと思います。

(市長)

放課後の学習支援などにおいて、子どもたちの声は届いていますか。

(こども未来政策部長)

直接出向いて、話を聞いています。まだ、これからということもありますが、話す機会がこれからできていくと思います。

(高橋委員)

夢の実現に向けて、スモールステップで支援できるとよいです。

(朝倉委員)

大学生と接する機会ができることで、意識が変わるのではないかと思います。学生がスクールパートナーとして活動している地域もありますか。

(学校教育課長)

大学生が学校でサポーターとして活動しています。主に、地元の愛知大学の4年生が空き時間の中で、近隣の小中学校に出向いています。愛知大学生は195名ぐらい活動しています。愛知教育大学は、昨年度から2年生が9月から2月ぐらいまで、単位取得のための活動として取り組んでいます。全県下で、学生が教師としての適正を考えるために、出身校において活動する取り組みを拡充すると聞いています。

(朝倉委員)

大学生と触れ合うことで、子どもたちの大学への見方はかわっているのですか。

(学校教育課長)

教職につきたいと思う生徒は増えていると思います。

(教育長)

この調査は、親と話をしながら回答していることも考えられます。資料の8-1の「高校まで」受けさせたいという項目は豊橋が多いですが、「短大・専門学校まで」も豊橋が多くなっています。でも、「大学まで」は、県の方が高くなっています。この結果を見ると、子どもの意識がそのまま表れているのか、親の意識が反映しているのかがはっきりしない部分もあるかと思います。しかし、一度、この結果を校長会議に出してはどうかと思います。せっかくの調査結果なので、学校現場に知ってもらうことも必要だと考えます。

(市長)

この調査結果をどう解釈して、貧困対策や学校にどう生かしていくかです。別の結果ともつなげて考えていきましょう。

(芳賀委員)

できれば世帯収入をもとに、回答の分布状況がわかるとよいです。大学生の家庭の世帯収入は200～400万が多いです。

(渡辺委員)

学費や生活費の心配をしないで、大学進学できるようにすることがやはり必要です。

(教育長)

今回は、これをクロス集計した資料を出していただけるのですか。

(こども未来部長)

今回の資料で、ご意見いただきたいと思います。

(教育長)

では、教育委員会定例会でも話をしていきます。

3 児童生徒の体力・運動能力について

■学校教育課長 協議事項について資料説明

(高橋委員)

ボール投げの結果が低かったということですが、ボール投げの技術指導について、具体的に何かされていますか。また、検討していることはありますか。

(学校教育課長)

これから、この結果をもって検討していきます。ボールがハンドボールであるため、普段あまり手にしないサイズということも、結果が伸びない要因でもあります。

(高橋委員)

投げ方の指導をする教員自身が、同じように指導できるのかという問題もあると思います。ある業種では、熟練の人の動画を使って若手の技術指導をするそうです。ボールの投げ方の動画を教員全員で見て、指導に入ることによって結果につながると思います。

(市長)

体を守るためにも、正しい投げ方、正しい体の使い方から入るといいですね。豊橋版のビデオテキストを作るとよいです。

(高橋委員)

そうすることで、成果につながるのではないかと思います。

(教育長)

やれることは、やっていきましょう。

4 今後の協議事項

教育政策課長 資料説明

連絡事項

- ・次回開催日程

平成29年6月1日（木） 15：00～